

International Conference on Individual Monitoring of Ionising Radiation 印象記

加藤 昌弘
Kato Masahiro

1. はじめに

4月20～24日にかけて、ベルギーのブルージュにおいて、International Conference on Individual Monitoring of Ionising Radiation (IM2015, URL www.im2015.org) が開催された。IM2015は外部被ばく、内部被ばくを含む個人モニタリング全般を扱う国際会議であり、個人モニタリングにおける測定手法に関する情報を交換し、改善していくことを目的としている。筆者は本会議に参加するのは初めてであったが、本会議は名称を変えつつ、数十年前から5年度ごとに開催されているとのことである。主催者によると参加者は運営者や企業出展の参加者を含めて424名、そのうち一般参加者が266名、招待講演者が18名だった。参加者・発表者ともに約3分の1を女性参加者が占めていたそうであり、筆者がこれまでに参加した国際会議の中ではかなり女性比率の高い会議であった。また線量計メーカーからの開発状況についての発表も目立ち、民間企業からの参加者も比較的多く感じた。

ブルージュの街は、古い、恐らく戦前の、街並みが色濃く残っており、国際的に有数の観光地のようなのである。会議の期間中も多くのヨーロッパ人や日本人・中国人の観光客が訪れていた。筆者にとっては英語以外の言語が公用語の国への渡航が久しぶりで、少々緊張していたが、街の中では小さな土産物店の店員やバスの運転手が相手でも、問題なく英語で対応してもらえた。また体感的な治安も良く、滞在中とても快適に過ごすことができた。しかしながら日



写真1 口頭発表会場

口頭発表の会場は1か所のみ。カンファレンスディナーもこの会場で行われた

本からのアクセスはあまり良くない。パリやアムステルダムなどの国際空港から高速特急とベルギー国内の鉄道を乗り継ぐのが一般的だが、国際空港での鉄道への乗り換えに何時間も待つ必要があった。

2. 会議の概要

会場は、ブルージュ駅とブルージュ観光の中心地であるマルクト広場 (The Markt) のほぼ中間に位置する旧聖ヨハネ会議場 (Oud Sint-Jan Site) で行われた。開会の基調講演のほか、10のテーマに分類された69件の口頭発表と161件のポスター発表が行われた(写真1)。開会の基調講演ではC. Wernli博士から「Why individual monitoring?」と題した講演があり、近年までの放射線防護の歴史について、測定量の単位や線量計の移り変わりなど、概要が語られた。放射線関連の単位にしても線量計にしても非常に多くのものがこの100年余りに生まれてきた

のだなと改めて感慨深かった。ポスター発表は20日、21日、23日の3日間に分けて行われた。主催者によると、ポスターの発表のうち約半数がヨーロッパ各国からの発表であった。またヨーロッパに次いでアジアからの発表が多く、そのうちのおよそ半数が日本からであった。

発表については眼の水晶体被ばくの測定に関する発表が多く、参加者の興味も高かったようだ。本会議では口頭発表・ポスター発表のほかに、1つのテーマについて簡単な説明の後に会場から意見を発言していく形式で進行する“discussion session”というセッションが設けられ、会期中2回行われた。このdiscussion sessionのテーマの1つにも水晶体の測定が選ばれ、活発な議論が行われた。筆者は主に β 線に関する研究を行っており、今回は水晶体被ばく線量測定で欠かせない β 線の3 mm吸収線量測定に関して発表した。国内外の学会などでは β 線について関心を持つ方は少数であるのが普通だが、今回は多くの方に関心を持っていただくことができ、非常に有意義な会議であった。既に多くの方もご存知のように、ヨーロッパにおいては3 mm線量当量の測定に関する研究や標準機関での比較が盛んに行われている。先行する研究内容をよく確認するとともに、国際的な場面で日本からも積極的に発言していく必要があるだろう。

3. 会議以外の所感

研究発表以外にも、IM2015の公式プログラムとして多くのイベントが行われた。エクスカッションではテーマごとに複数のグループに分かれ、ブルージュの観光を行った。テーマはブルージュの歴史・ビールの醸造所・チョコレートなど旅行者にとってどれも魅力的なものであった。いずれのグループも徒歩での観光の後、ボートに乗りこみ、水上からブルージュの街を楽しんだようである(写真2)。23日の朝にはジョギングセッションという5 km又は10 kmを走るという企画があり、筆者も果敢に5 kmの部に参加した。ブルージュの街並みを見ながらゆっくりジョギングして、シャワーの後にゆ



写真2 ブルージュの街並み

っくり朝食を、ともくろんでいたが、ほかの参加者はいずれも腕に覚えのある方々だったようで、後方を付いて行くのがやっと。なんとか完走することができたが、景色を見る余裕は全くなかった。カンファレンスディナーは、公式プログラムに19:00開始1:00終了とあった通り、夜半までほかの参加者と食事や飲み物、会話を楽しんだ。後半は会場にポピュラーミュージックが流れ、さながらディスコハウスのように、多くの参加者が踊りを楽しんだ。このように会議以外のイベントが幾つも企画されており、言語的にバリアのある日本人としてはほかの参加者と打ち解けやすい雰囲気を提供していただけたと思った。主催者に改めて感謝したい。

4. おわりに

IM2015はテーマが個人線量モニタリングという国際会議として珍しいテーマであることに加え、内容も充実しており、放射線防護の線量測定法や、線量計の開発に携わる者にとって大変興味深い内容の会議である。伝統的にこれまで比較的ヨーロッパからの参加者が多かったようだが、特に今後はテーマや会議以外のイベントをより魅力的にして、全世界的に参加者を拡大しようという方針のようで、日本からの参加も期待されているように思う。放射線防護の分野の発展に貢献できるよう、今後も5年に一度の機会を是非活用していきたいと感じた。

(産業技術総合研究所)